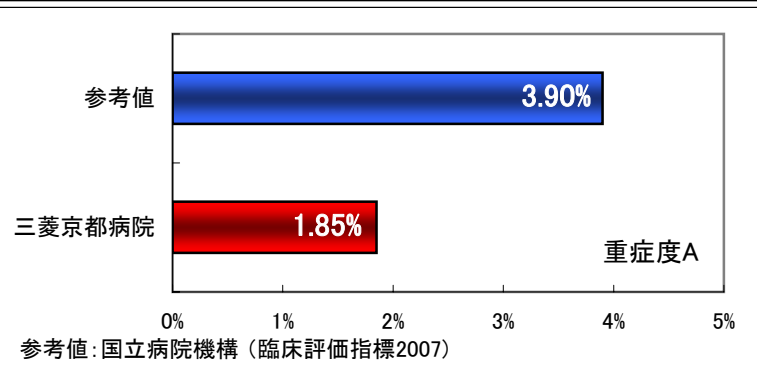


# 三菱京都病院 臨床評価指標 2007

「高度であたたかい医療を提供する病院」が私たち三菱京都病院の基本理念であり、具体的な目標でもあります。理念に謳う「高度な医療」にどのくらい近づけたかを私たち自身が知り、そして当院をご利用になるみなさまにお知らせすることが大切と考えます。そこで、病院の通知簿にあたる『臨床評価指標』を公表する運びとなりました。今回公表する項目数は少数にとどまりますが、みなさまの忌憚のないご意見、ご助言をいただき、当院の医療の質の向上に努めてまいりたいと思います。

## 急性心筋梗塞の重症度別死亡率

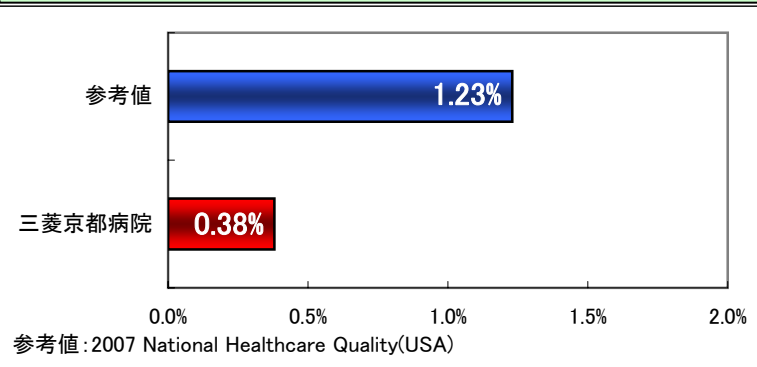


重篤な心臓病である急性心筋梗塞の死亡率は、迅速な診断や、治療方法の選択や手技が適切であったかなど、急性期医療の質を評価する上で重要です。当院は、平均的な病状（重症度A）での死亡率は国立病院機構の2分の1と良好な成績となっています。人工呼吸器や大動脈バルーンポンピングを要する極めて重篤な病状でも、遜色のない成績です。（重症度Bで参考値31.1%に対し33.3%、重症度Cで参考値20.8%に対し25%）

分母：退院した患者のうち急性心筋梗塞が主病名である患者総数  
分子：退院した患者の転機が死亡であった患者数

重症度A：人工呼吸なし、大動脈バルーンポンピング法なし、経皮的心肺補助法なし群  
重症度B：人工呼吸あり群（大動脈バルーンポンピング法なし、経皮的心肺補助法なし）  
重症度C：大動脈バルーンポンピング法あり群（人工呼吸実施の有無は問わない）

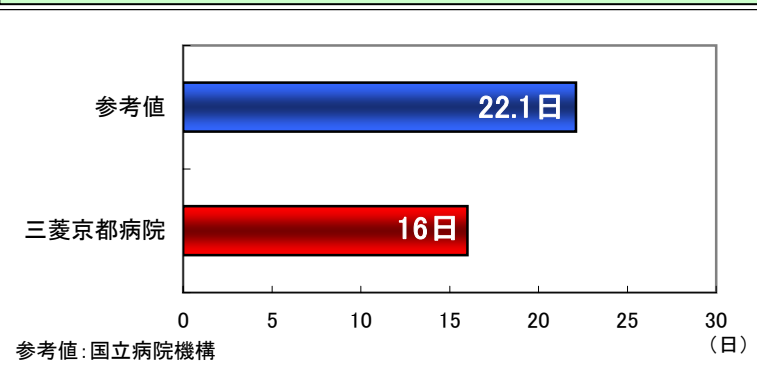
## 待機的PTCA後の24時間以内の院内死亡率



狭心症に対するカテーテル治療の成績は、循環器疾患の治療の質を示す代表的な指標とされています。当院では、極めて低い死亡率となっています。

分母：PTCA（緊急を除く）実施入院患者数  
分子：24時間以内の院内死亡患者

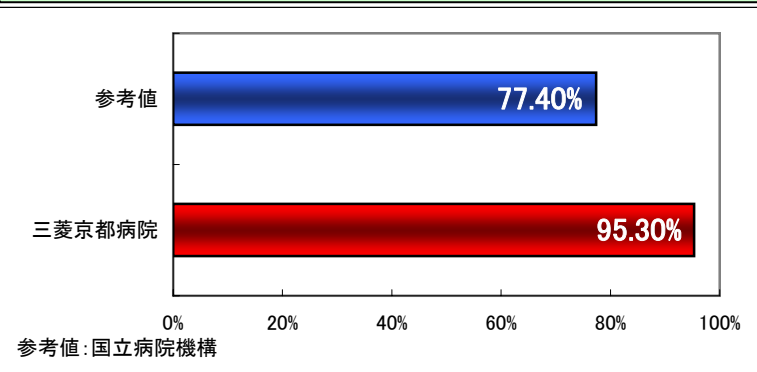
## 急性心筋梗塞の平均在院日数



適切な治療効果が得られれば、より早期に退院が可能となります。同じ診断での平均在院日数の短さは、適切な治療の反映と考えられます。

分母：生存退院した急性心筋梗塞患者の在院日数の総和  
分子：生存退院した急性心筋梗塞患者の総数

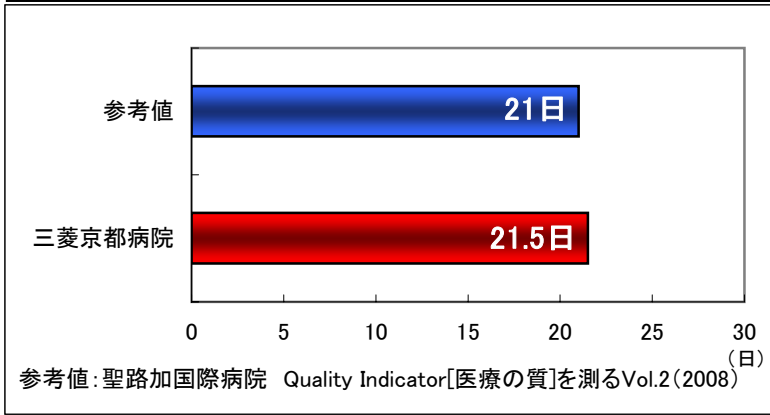
## 急性心筋梗塞患者における入院当日もしくは翌日のアスピリン投与率



冠状動脈（心臓に血液を送る血管）の血流確保のために、急性心筋梗塞の診断後早期に、抗血小板剤アスピリンを投与することは標準的な治療として推奨されています。当院の投与率が高いことは、学会標準の医療がおこなわれていることを反映したものと考えられます。

分母：急性心筋梗塞で入院した患者数  
分子：入院当日もしくは翌日にアスピリンが処方されていた患者

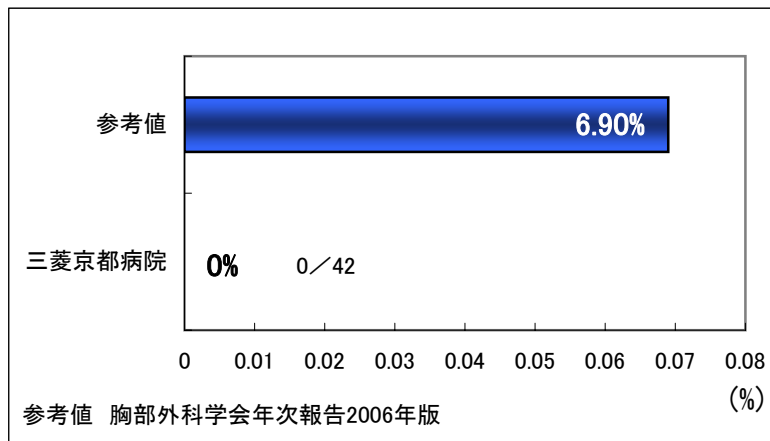
## 開心術手術患者の平均術後在院日数



冠動脈バイパス術などの開心術後の術後在院日数は、手術自体の手技や術後管理など高度医療全般を反映する指標と考えられます。

分母：開心術を受けた患者の数  
分子：対象の術後在院日数の総和

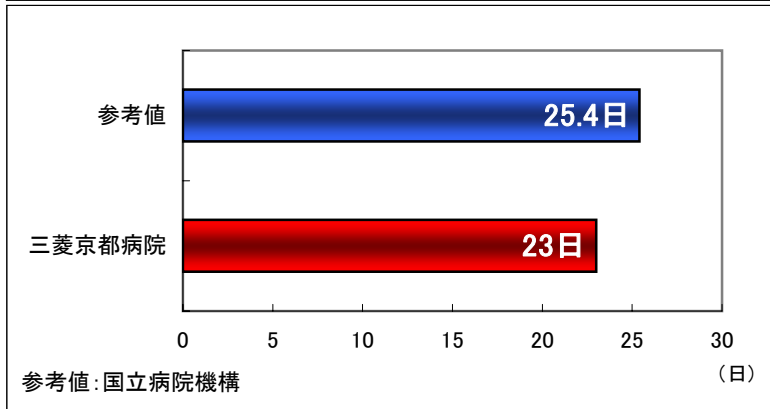
## 非透析初回冠動脈バイパス術在院死亡率



当院の症例には緊急手術も含まれています。

分母：非透析冠動脈バイパス術症例数  
分子：在院死亡数

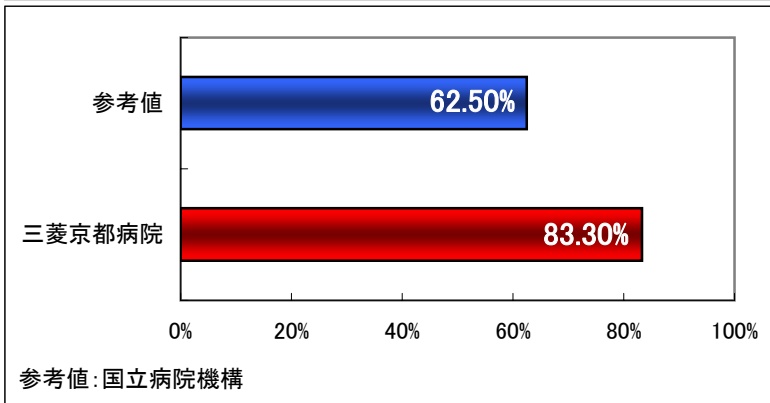
## 胃癌手術平均在院日数



胃がん手術は、消化器外科における頻度の高い手術で、平均在院日数は標準的な外科医療の指標の一つと考えられます。当院の日数は、国立病院機構よりも早期に退院可能であることをあらわしています。

分母：胃癌手術症例数  
分子：対象症例の術後在院日数の和

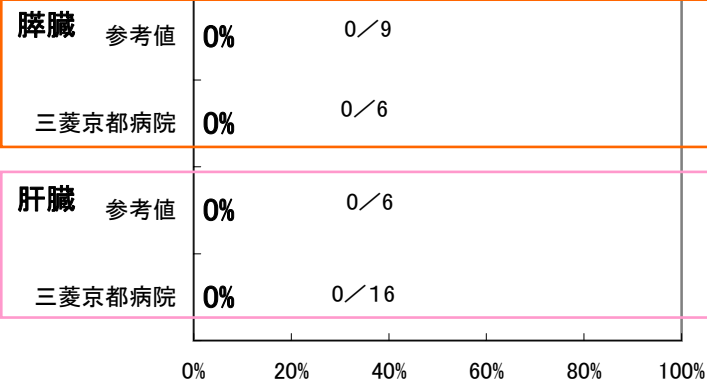
## 大腸癌切除術5年生存率 StageⅢ



5年生存率はがん治療の基本的な指標の一つです。当院の成績は増加傾向にある大腸癌手術の成果が良好であること、また術後科学療法など適切なチーム医療が行われていることを示すものと考えられます。

分母：5年生存者数  
分子：大腸癌根治手術施行症例数

## 膵臓・肝臓癌の死亡退院患者の割合



参考値: 聖路加国際病院 Quality Indicator[医療の質]を測るVol.2(2008)

消化器癌のなかでも難易度の高い膵臓癌や肝臓癌の成績は手術技術のレベルを反映するとともに、術前の的確な診断、術後の適切な管理・看護など施設の総合力の反映と考えられます。

膵臓

分母: 膵臓癌における膵臓切除患者数

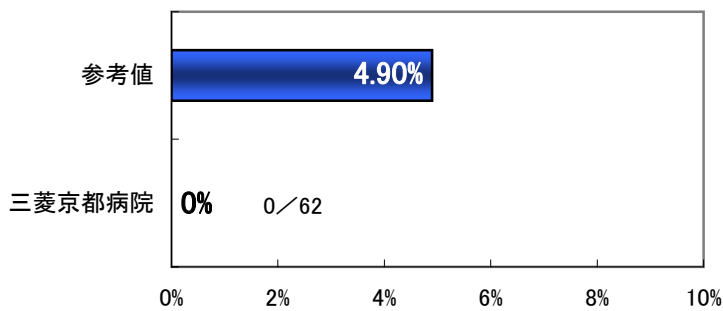
分子: 膵臓切除後の死亡退院患者数

肝臓

分母: 肝臓癌における肝臓切除患者数

分子: 肝臓切除後の死亡退院患者数

## 腹腔鏡から開腹術に移行した胆嚢摘出術の割合



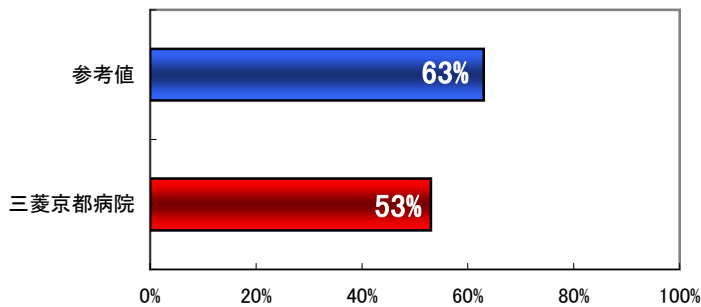
参考値: Ann Surg 1996;224:609-620

腹腔鏡手術は身体への負担が少なく早期の回復が得られる手術方法ですが、術前診断や術者の技量により開腹術への移行を要する場合があります。当院でそのようなケースが見られなかったことは適切な術前診断や腹腔鏡手術の技術レベルを反映していると考えられます。

分母: 腹腔鏡下胆嚢摘出術で手術を開始した患者数

分子: 途中で開腹手術に移行した手術患者数

## 乳腺患者での乳房温存手術割合



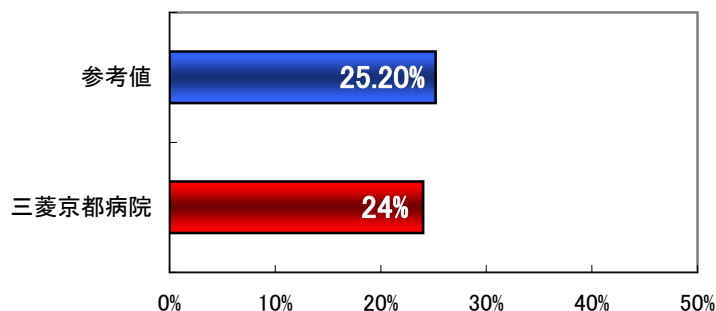
参考値: Am Fam Physician 2002;66:2271-2278

乳がん手術における乳房温存療法の選択は、施設の方針だけでなく、がんの大きさや広がりにも左右されます。当院では手術、術前術後の化学療法、ホルモン療法、それに放射線療法を組み合わせることによって乳癌の根治と整容性を両立させることを基本方針としています。

分母: 乳房手術実施件数

分子: 乳房温存手術件数

## 初妊婦の帝王切開率



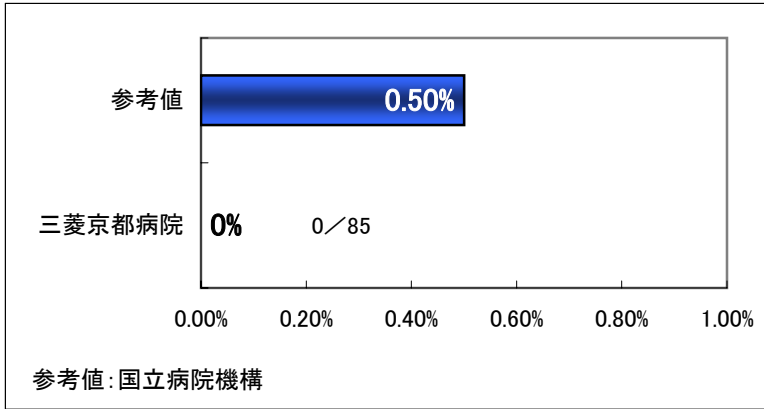
参考値: 国立病院機構

当院では、出来るだけ自然分娩を心がけております。帝王切開の割合は各施設で対応する妊婦の状態により影響されますので、本データはあくまでも参考データと考えられます。

分母: 36週以降43週未満の出産を行った妊婦の数

分子: 帝王切開数

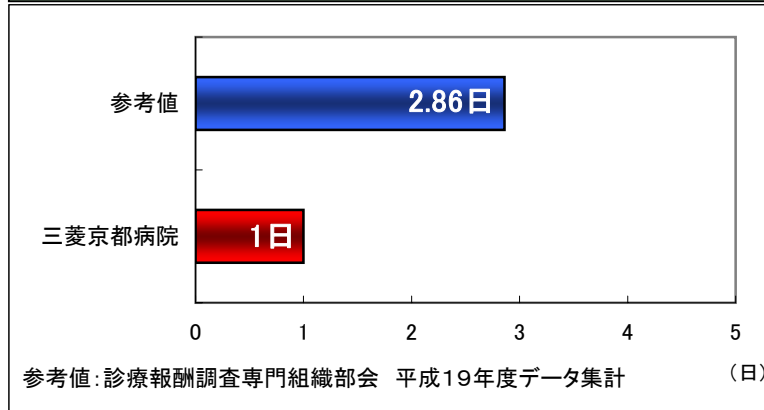
## 低出生時体重(1000~2500g未満)の死亡率



当院産婦人科は小児科との密な連携により、ハイリスク妊娠の分娩管理が可能で地域でのセンター的役割を果たしています。28週以降の低出生児体重の死亡率は0%です。本データはその成績の一端を示すものです。

分母：低出生時体重数  
分子：死亡数

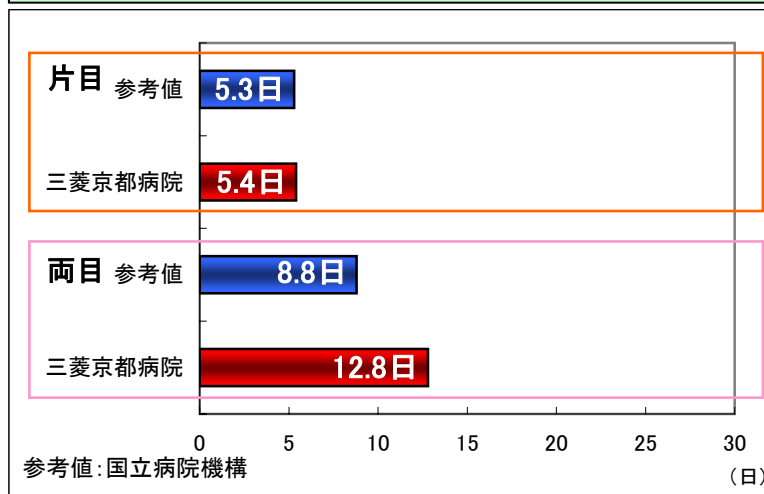
## 小児そけいヘルニア手術後平均在院日数



小児の手術は、ご本人・ご家族両者に大きな負担となります。当院では小児のそけいヘルニアは日帰り手術を基本としております。

分母：ヘルニア手術における小児患者数  
分子：ヘルニア手術における小児患者数の在院延べ日数

## 白内障手術における平均在院日数

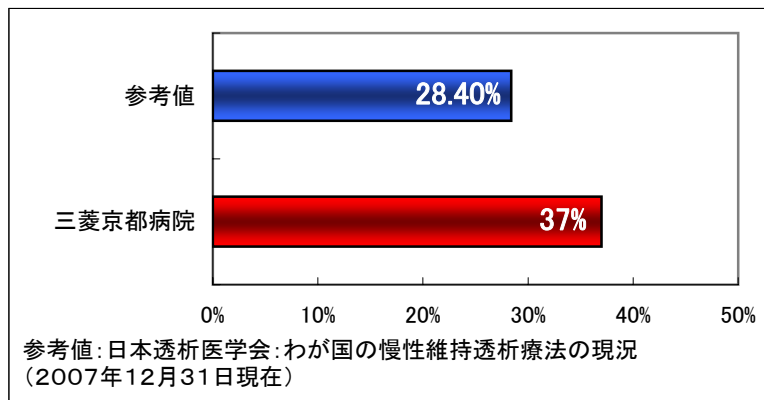


白内障手術は現在片目で4日、両目で8日の入院期間が基本です。しかし患者様の高齢化などにもなつ入退院のご都合への配慮など効率の以外の面が平均在院日数に反映されています。

片目  
分母：片眼白内障手術で2日以上入院した患者の数  
分子：在院日数の総和  
両目  
分母：両眼白内障手術で2日以上入院した患者の数  
分子：在院日数の総和

## 維持血液透析患者の貧血コントロール

※ 初月のヘモグロビン検査値が11g/dlより大きい患者比率

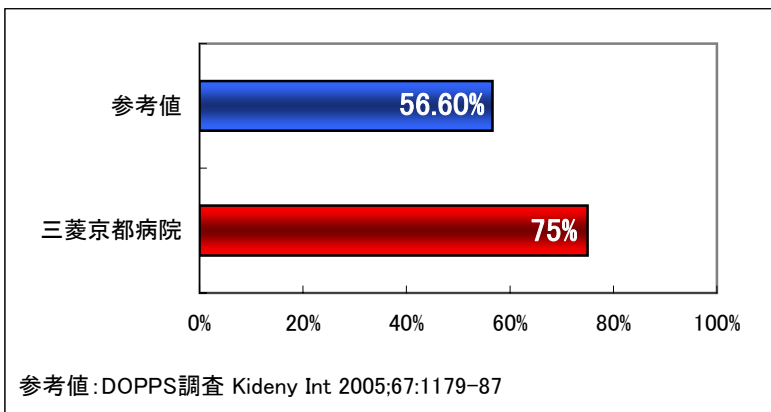


透析を受けておられる方の貧血治療は、日本透析医学会のガイドラインではヘモグロビン10g/dl以上、欧米のガイドラインでは11g/dl以上が推奨されています。わが国でも活動性の高い比較的若年者ではヘモグロビン11g/dl以上が推奨されており、当院でも活動性の高い方を中心にその水準の維持を図っています。

分母：維持透析患者数  
分子：月初めのヘモグロビン検査値が11g/dlより大きい患者数

## 維持血液透析患者のCaとPの管理

※ 維持血液透析患者でのCa・P積が55未満の者の割合



透析を受けておられる方は心血管疾患のリスクが高いことが知られており、その要因としてカルシウム(Ca)とリン(P)の管理が重要とされています。Ca・P積の管理目標は55未満とされており、当院でも食事指導、薬物療法により適正な管理を図っています。

分母：維持透析患者数  
分子：月初めのCa・P積が55未満の患者数